

佐久市臼田地区生涯活躍のまち事業化基本計画(案)

もくじ

I. 「佐久市臼田地区生涯活躍のまち基本計画の位置づけ」

1. 基本的な考え方
2. 対象区域について
3. 計画期間について
4. 計画を通じた目標（重要業績評価指標：KPI）
5. PDCA サイクルの確立について（基本計画の改訂）

II. 「事業主体の選定」

III. 「取り組むべき方向性」

IV. 「生涯活躍のまち事業計画」の方向性

1. 移住を希望する者に向けた取組
2. 高齢者に適した住宅の整備やまちづくりに向けた取組
3. 社会活動への参加に向けた取組
4. 医療介護サービスの提供体系・関係機関との連携に向けた取組
5. IT活用などによる効率的なサービス提供
6. 事業運営について

V. 参考資料編

- A 佐久市の移住促進の基本構想
- B サービス付き高齢者向け住宅
- C 高齢者住宅事業の財務構造
- D 「事業計画」「入居者募集」「事業運営」についてのポイント
- E 地域包括ケアシステム
- F 基礎的データの状況把握
- G 先進事例調査
- H 市民・事業者ヒアリング記録
- I 佐久市生涯活躍のまち基本計画に向けて

I. 「佐久市臼田地区生涯活躍のまち基本計画の位置づけ」

1. 基本的な考え方

1) 経緯

佐久市の人口は平成22年（2010年）をピークに減少に転じており、人口減少問題に対峙する中で、新たな人の流れを生み出す手段のひとつとして「生涯活躍のまち」が有効であると考え、平成27年7月から有識者による検討を進め、10月末に「佐久市生涯活躍のまち構想」を策定し、「佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に盛り込んだ。

この構想では、佐久市の地域特性を生かし、地域病院を中心とした「医療連携・健康づくり推進型生涯活躍のまち」をコンセプトに掲げ、東京圏に住むアクティブシニアが自らの希望に応じて移住し、地域の仕事や社会活動、生涯学習などの活動に積極的に参加し、多世代と交流しながら継続的なケア体制を確保することで、移住・交流を一層促進し、地域の活性化を図ろうとするものである。

佐久市の地域特性や地方創生に関する取り組み、日本版 CCRC 有識者会議の「生涯活躍のまち」構想（最終報告）を踏まえ、東京圏での情報発信とニーズ調査、受け入れ側の協力体制づくり、事業形態、運営体制の検討等を行い、事業化による人口減少対策や地域経済の活性化等への効果等を反映した臼田地区での事業化に向けた基本計画を策定する。

2) キャッチフレーズ

佐久市生涯活躍のまち構想のコンセプトである佐久市の地域特性を生かし、地域病院を中心とした「医療連携・健康づくり推進型生涯活躍のまち」を移住者募集における PR をするため、臼田地区生涯活躍のまちに関するキャッチフレーズを以下のように設定する。

「○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○」

本キャッチフレーズは、高齢者ニーズとして、体が弱くなっても子どもに迷惑をかけたくないという思いがあること。また、都心からの移住者にとっては、都心の生活とは違った新しい田舎づくりができること。その一方で、医療連携・健康づくり推進により高齢者の健康寿命を伸ばすとともに、いざという時も医療の安心感のある環境を実現できるなどの点を考慮して設定するものである。

2. 対象区域について

佐久市生涯活躍のまち構想では、立地タイプをエリア型として農村型（生きがい重視）、都市型（利便性重視）の2つの形態を想定している。本計画では、そのうち農村型の臼田地区を対象区域とする。

農村型…山沿いや農村など、「自然豊かな地域の中におけるサ高住」を想定している。農業や地域活動への参加など地域に溶け込み、積極的に創造的な健康を目指すとともに、地域住民とふれあい、きずなを深め、生きがい豊かな生活を想定している。

都市型…佐久平駅周辺など交通の利便性が高い市街地周辺における「街中のサ高住」を想定している。

大学や商業施設、公共施設等に近い地域で、これまでの経験を生かした軽就業やボランティア、学習講座や趣味のサークルなどの生きがいを持って生活することを想定している。

3. 計画期間について

計画期間は平成 30 年度（2018 年度）までとする。

都市型の検討についても本計画との調整を図りながら適宜進めるものとする。

4. 計画を通じた目標（重要業績評価指標：KPI）

重要業績評価指標：KPI

平成 29 年度 まちづくり会社設立（1 社）

事業主体の選定（1 社）

移住促進センターにおける佐久市への移住希望者数（15 件）

平成 30 年度 生涯活躍のまち拠点整備（1 ヶ所）

人口の社会増の累計（1,000 人）

5. PDCA サイクルの確立について（基本計画の改訂）

本計画の進行管理は、PDCA のマネジメントサイクルに則し、佐久市臼田地区生涯活躍のまち事業化検討委員会の評価を参考にしながら進めるものとする。各年度の達成状況を評価したうえで、本計画の目標達成に向けた取組みを推進していくものとする。

評価にあたっては、限られた財源の中で、より効果的・効率的な財源配分と事業選択を行うという観点から、市全体の取り組みとの関係性を考慮しながら、計画の改訂などを含めた見直しを行う。

II. 「事業主体の選定」

1. 選定主体

本基本計画策定の後、事業主体（「生涯活躍のまち」運営推進法人）の選定を行う。その際には、多様な意見を反映するため、佐久市臼田地区事業化検討委員会において、「事業計画」に盛り込まれる内容等について協議を行うものとする。「事業計画」については、IVにて提示したものを基本とする。

また、事業実施においては、多様な団体・事業者との連携が欠かせないので、事業選定においては民間主導のまちづくり会社を設立し、まちづくり会社がプロデュース役となってその役割を担う。

2. まちづくり会社の役割

まちづくり会社が担う役割は主に2点である。一つは事業主体の事業への参入を促す支援、もう一つは事業主体の事業実施後のチェック機能である。

事業主体の選定のためには、事業を担う事業者が前向きに事業への参加の意思表示ができる環境を整える必要がある。事業成立の要件としては、①入居者がいること、②ニーズに合った事業となっていること（商品開発）、③事業費・価格を抑えられること、④地元（自治体、住民、医療、介護等）の協力が得られること、⑤人材（特に介護）が確保できること、⑥資金確保ができることが挙げられる。入居者の確保や商品開発には事業者の先行投資が必要で、そのリスクを軽減することで、事業参入を下げるができる。そのため、まちづくり会社は上記の項目を考慮した取り組み（例：融資を受ける際の信用の付与等）を行う必要がある。

III 「取り組むべき方向性」

地方創生の流れの中で、多くの自治体が生涯活躍のまち実現に向けて取り組んでいる。自治体間競争が激しくなることが予想される中で、佐久市臼田地区の独自性を出していくことは、移住希望者へ情報が伝わりやすくなるとともに、考え方の合った人々が集まるため、退去につながりにくくなる。そこで、以下の方向性で取り組みを進める。

1. 地域包括ケアの構築

佐久市の持つ地域特性である医療・介護環境の充実を活かし、地域包括ケアの構築に取り組む。

特に介護スタッフの確保に向けた取り組みを行う。

1) 現状と課題

地域包括ケアの構築のために重要な在宅医療体制の確保は佐久総合病院を中心とした体制があることに加えて、多職種連携についても地域包括支援センターが中心となって取り組みが行われている。介護人材不足や生涯活躍のまちに関するノウハウなどについては、今後強化すべき課題となっている。

2) 本取り組みの目指す姿

誰もが自分が望む最期を迎えられる医療・介護体制

3) 本取り組みの成果目標値

指標	目標値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 30 年度)
介護人材確保			
生涯活躍のまち担い手 作り	1	2	4

2. 商品開発

生涯活躍のまち移住促進センターが実施する生涯活躍のまちをつくる会等を活用し、移住に関する取り組みや住まいづくり等に関するニーズ調査と商品開発を行う。

1) 現状と課題

移住に関する各種取り組みを行っているものの、臼田地区を体験できる機会がソフト、ハードともに非常に少ない。また、佐久市全域での取り組みとなっているため、ソフト面とハード面での連動性が薄い。

2) 本取り組みの目指す姿

移住希望者のニーズに基づいた商品開発

3) 本取り組みの成果目標値

指標	目標値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 30 年度)
佐久市で生涯活躍のまちをつくる会の実施	12	12	12
お試しツアーの実施	2	4	4

3. 移住希望者の確保

生涯活躍のまち移住促進センター等を活用し、移住希望者への情報発信と相談を行うことで、臼田地区に適した移住希望者の確保を行う。

1) 現状と課題

臼田地区に特化した情報発信は行われていない。常設の相談機能は市役所への問い合わせなどに限られている。

2) 本取り組みの目指す姿

移住希望者への円滑な情報伝達と相談体制の構築

3) 本取り組みの成果目標値

指標	目標値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 30 年度)
移住イベント出展	4	4	4
移住促進センター相談 延べ人数	200	300	400

4. 事業費抑制の取り組み

幅広い層の移住者を受け入れるため、適切な賃料設定ができるように事業費抑制に向け、建築費抑制等の取り組みを行う。

1) 現状と課題

東京オリンピック実施決定による建築費の高騰。

2) 本取り組みの目指す姿

入居希望者のニーズに合った賃料の実現

3) 本取り組みの成果目標値

指標	目標値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 30 年度)
他自治体連携			
市内事業者育成			

5. 地域の協力体制の構築

移住者が地域に溶け込み、新たなコミュニティを創出できるための地域の受け入れ体制、協力体制を構築する。

1) 現状と課題

生涯活躍のまちの考え方は浸透しつつも、理解が不十分な人も多い。受け入れるためのおもてなしの気持ちが必要だという人はすでにいるので、そのような人材を拡大していくことが課題となる。

2) 本取り組みの目指す姿

臼田地区全域での移住者受け入れ体制の構築

3) 本取り組みの成果目標値

指標	目標値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 30 年度)
移住者活動の場づくり	2	4	6
住民自主活動グループ 結成	1	2	3